

成長期野球肘発症のリスク因子



齊藤 明

Akira Saito

講師 博士（保健学）

大学院医学系研究科 保健学専攻 理学療法学講座

研究キーワード

野球肘、成長期、障害予防、肘関節外反トルク、加速度計、超音波診断装置

研究概要

成長期野球肘の発症には、投球時の肘関節ストレスが関与すると考えられていますが、明確なエビデンスはありません。また急激な成長（身長・体重）や身体・筋の硬さ、練習量、ポジションなど様々な要因も野球肘発症に関与します。

本学では秋田県内各地で「**投球障害予防教室**」を開催しており、野球肘の予防啓発とともに、**年間350名のデータ**を取得し、野球肘発症のリスク因子を検討しています。中でも筋の硬さや背骨の形、投球時の肘関節ストレスと野球肘との関係を中心に研究を進めております。

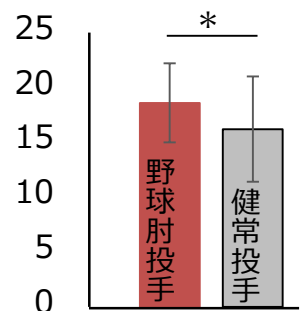
近年、**小型加速度計**により簡便に肘関節ストレスが計測可能になりましたが、**より高精度な機器の開発**が必要です。

<小型加速度計による肘ストレスの計測>

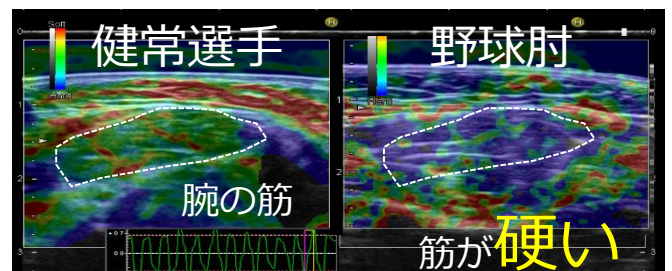


加速度計

肘に装着して投球



<筋の硬さ（青：硬い・赤：柔らかい）>



予想される応用例

- 1) 野球肘の予防
- 2) 投球時の肘のストレス計測や計測値から障害の危険度を予測するプログラムの開発

産業界へのアピールポイント

肘のストレスを計測する機器や障害予測のプログラムは、需要が非常に高いです。簡便でかつ正確な機器が求められています！